

平成17年度 文部科学省

特色ある大学教育支援プログラム

採択取組の概要および採択理由

高齢社会に対応した歯科衛生士の育成 — 歯科口腔介護教育のカリキュラムへの導入 —

取組担当者 金子 潤 (歯科衛生士学科)

(取組の概要)

わが国は近年、高齢化社会から高齢社会へと急速に進み、障害を持つ高齢者や認知症老人など介護を必要とする高齢者が増加の一途をたどっている。これらの人々の自立とQOLの向上に、歯科口腔介護は重要な役割を果たすと考えられるが、それに携わるべき歯科衛生士の知識、実践力は決して十分とはいえない。このような現状から、障害者や高齢者のニーズに応えるためには、歯科口腔介護を実践できる歯科衛生士の養成が重要かつ急務と考えられる。そこで本学では1997年度開学と同時に、介護の必須条件であるケアマネジメント手法を取り入れて「歯科口腔介護」を整理・体系化し、30時間の講義および基礎実習と、長期間（約6週間）にわたる介護保険施設での臨地実習からなる歯科口腔介護教育プログラムを歯科衛生士養成カリキュラムに導入した。本科目を選択科目としたにもかかわらず、取組開始以来100%の学生が選択しており、このような保健・医療・福祉を包括的に捉えた教育プログラムを導入することはきわめて有意義と考えられる。

(採択理由)

この取組は、明倫短期大学の教育目標である「障害者・高齢者のニーズに応えるために歯科口腔介護を実践できる歯科衛生士の養成が必要である」を達成するために、既に8年以上にわたって実施されている取組です。この取組は、介護の必須条件であるケアマネジメント手法を取り入れ、歯科口腔介護を整理・体系化し、講義および基礎実習と介護施設での臨地実習からなるプログラムを歯科衛生士教育カリキュラムの中に導入された先進的な内容で、独創的であるといえます。特にケアマネジメント手法の導入および6週間にわたる臨地実習については先進性が見られ、今後ますます歯科口腔介護教育の発展が期待されます。

この取組は、他の大学、短期大学の参考になり得る優れた事例であるといえます。